

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

特に注意！（3月）

なす（施設栽培）

灰色かび病

- ・咲き終わった花卉や幼果に感染しやすく、20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなります。適度に換気を行い、湿度を下げましょう。
- ・発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたらセイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブルなどを散布しましょう。

アザミウマ類

- ・苗からの持ち込みによる発生に注意しましょう。
- ・発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布しましょう。
- ・育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用しましょう。
- ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。
- ・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。

たまねぎ

べと病

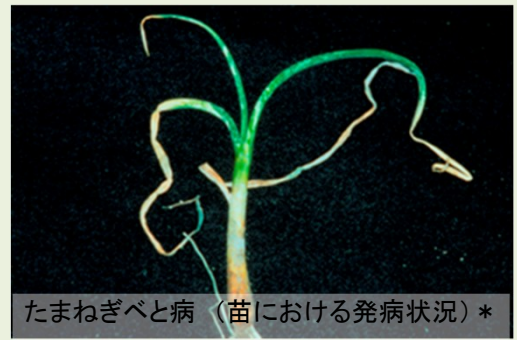
- ・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として2～3月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布しましょう。
- ・発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布しましょう。



灰色かび病症状*



ミナミキイロアザミウマ成虫※



たまねぎべと病（苗における発病状況）*

次回の情報は3月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

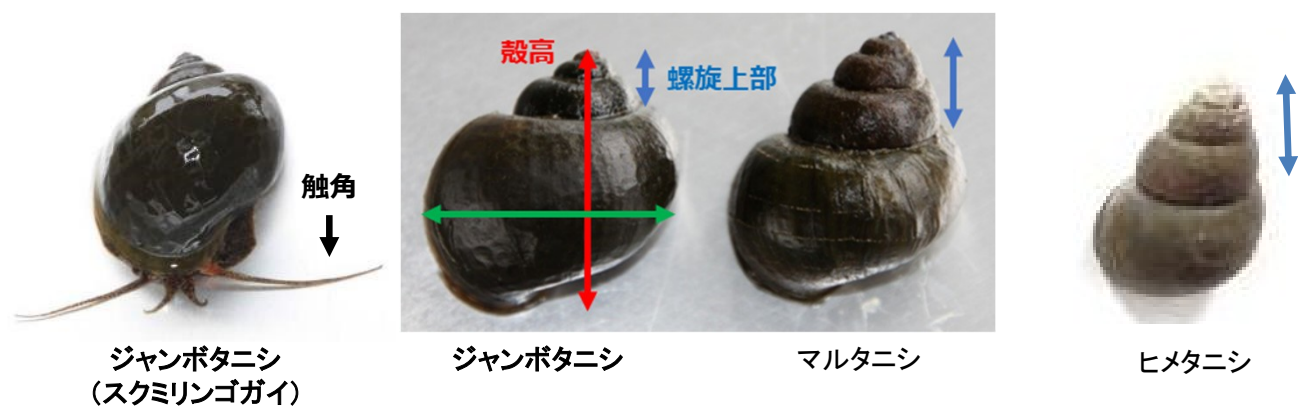
※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

水稻

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



注) 当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆ 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆ 年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆ 耕うんの際、耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トンゴなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

果樹

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子（分生孢子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

ハダニ類



カンザワハダニ※

特徴

- ◆加温機の近くやダクトの先端部など、高温になりやすいところから発生する。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、マイトコーネフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブルなどを散布する。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウの幼虫*

特徴

- ◆幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- ◆卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- ◆早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

- ◆幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

いちじく

ハダニ類、カイガラムシ類



カンザワハダニ※



フジコナカイガラムシ幼虫※

防除のポイント

- ◆夏期の被害をおさえるため、3月中旬（発芽前）に石灰硫黄合剤を散布する。

もも

せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

特徴

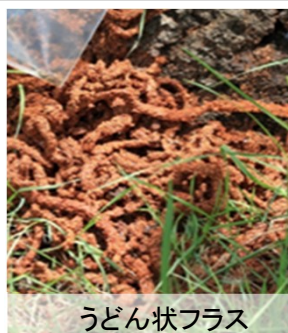
- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- ◆病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆開花期直前にICボルドー412を散布する。（葉害を生じるおそれがあるため、開花後から8月下旬までは使用しないこと。）
- ◆春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- ◆風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。
- ◆幼虫は3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出すので注意する。フラスを見つけたら、千枚通しや針金を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

伐採後の切株について



処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、**処分のための運搬であっても市町村の指示に従う**こと。
- ◆市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの**分散防止措置を実施の上**、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

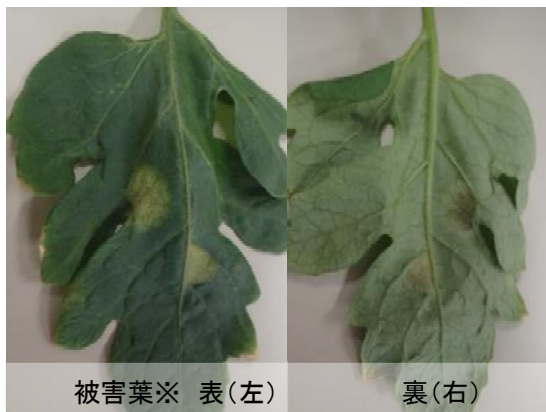
- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、**野焼きは原則として禁止**されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。**例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。**

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和3年5月12日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0305kubi_aka.pdf
- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病



被害葉※ 表(左)

裏(右)

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどを散布する。

灰色かび病



被害葉

被害果

特徴

- ◆施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

きゅうり(施設栽培)

黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉

特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MSV)によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリなどに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

退緑黄化病



キュウリ退緑黄化病被害葉※

特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はコナジラミ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

なす（施設栽培）

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆咲き終わった花がらや幼果に感染しやすい。
- ◆20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、セイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、アフーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布する。
- ◆育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

たまねぎ

べと病



べと病（苗における発病状況）＊

特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として2～3月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布する。
- ◆ 越年罹病株は早めに除去する。
- ◆ 発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

白色疫病



白色疫病発病株

特徴

- ◆ 2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMなどを散布する。

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ成虫 ※

特徴

- ◆ 成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC、グレーシア乳剤、プレオフロアブルを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。